

香取市佐原(千葉県)

(1) 保存地区の概要

地区名	香取市佐原
種別	商家町
面積	約7.1ヘクタール
選定年月日	平成8年12月10日

概要・特徴 古代から香取神宮の社領としての集落が営まれていたが、近世に入り、江戸を洪水から守るために利根川の瀬替え(東遷)が行われ江戸への航路が確保されると、河港商業都市としても栄えることとなる。明治31年(1898)の鉄道開通後も活発な商業活動を続けたが、昭和に入り、モータリゼーションの到来と共に急速に商業的求心力を失っていった。しかし、新市街地が旧市街地と別に形成されたことから、旧市街地の町並みは建替えを免れた。香取神宮へ通じる香取街道沿いには、かつて江戸から仕入れた日用品などを売り捌いた商家建築が、また小野川沿いには比較的間口の大きいかつての醸造家の建物が残り、当時の繁栄を今に伝えている。また、江戸から昭和の初期まで、繁栄期が比較的長かったことから、レンガ造の銀行建築やモルタル塗り外壁の医院など洋風建築も入り混じることとも佐原の町並みの特徴と言える。

(2) 保存地区の歩み

昭和48年	「伝統的建造物群保存対策事業」町並み調査
昭和57年	観光資源保護財団による町並み調査
昭和63年	「ふるさと創生事業」のアイデア募集
平成元年	「地域づくり研究会」の発足
平成2年	「まちづくりを語り合う場」の発足
平成3年	「佐原の町並みを考える会」の発足
平成4年	「佐原市佐原地区町並み形成基本計画」を作成
平成6年	「佐原市歴史的景観条例」施行
5月	保存会が発足「佐原町並み保存会」
平成7年4月	まちづくり推進室の設置
平成8年12月	重要伝統的建造物群保存地区の選定
平成14年3月	「防災計画策定調査報告書」作成
平成16年5月	全国伝統的建造物群保存地区協議会佐原大会開催
平成17年4月	街なみ環境整備事業開始
平成17年11月	佐原の町並み建物特別公開開催(～現在)
平成18年6月	小江戸佐原の骨董市開始(～現在・毎月第一日曜日開催)
平成18年11月	公共施設修景プロポーザル開催
平成19年7月	学生による空家・空店舗活用実験実施
平成20年9月	全伝協町並み保存技術研修会「香取大会」開催
平成21年7月	佐原町屋研究会が発足
平成21年9月	官学協働による回遊性促進検討業務に着手
平成23年3月	東日本大震災 伝統的建造物の約2/3に被害
平成26年5月	東京大学と佐原高校による「さわらぼ」が活動開始
平成27年5月	小野川左岸電線類地中化工事完了
平成28年4月	日本遺産認定「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」
平成28年12月	ユネスコ無形文化遺産登録「山・鉾・屋台行事」
平成29年3月	小野川左岸美装化工事完了

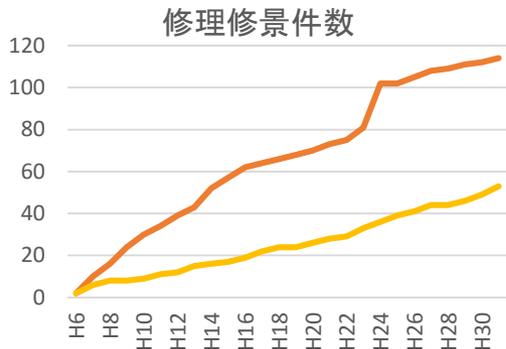
(3) 保存地区の保存と整備



電線類の地中化



道路の美装化



— 修理件数(累積) — 修景件数(累積)

初期消火用消火栓の整備



街路灯の整備



修理



修景



よみがえる町並み



香取市佐原(千葉県)

(4) 保存地区の活用とまちづくり

業態の変化



新規店舗の増加



地域活性化施設の整備



日本遺産認定



ユネスコ無形文化遺産登録



残したい日本の音風景百選



都市景観大賞「美しい町並み賞」



観光客数の変化



香取市佐原(千葉県)

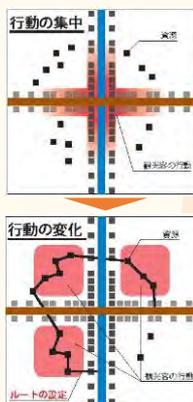
(5) 住民等の取組

実験店舗の運営



大学との協働

回遊性向上の研究



学生プロポーザルによる修景提案



住民団体の活動

小野川清掃



建物特別公開



高校生による「さわらぼ」



骨董市の開催



耐震性能の研究



夕涼みイベント



飲食店事業



観光船運行事業



第3セクター による事業